

# 四條畷市教育委員会ニュース

内容：

・夏の教員研修から

## 夏の教員研修から

子どもたちの夏季休業期間、教職員にとっては、自らの指導力・見識を高める絶好の機会でもありました。猛暑の夏でしたが、今年度もさまざまな研修会が実施され、多くの教職員が参加しました。その研修風景の中から、一部ですが様子を紹介します。

二学期からの授業や子どもへの見方等にどう生かされているか、楽しみです。



### ○初任者教職員研修「史跡めぐり」

8月2日（金）四條畷市小中学校教職員に今年度採用されました教諭・事務職員と10年目を迎える教諭の33名が、市内史跡探検に参加しました。永年、市の遺跡発掘に関わってこられています市教育委員会社会教育課の村上始さんから説明を受け、子どもたちの社会科、生活科、総合的な学習の時間の教材づくりに役立つ研修として実施しています。

四條畷市内には、歴史的に貴重な史跡が数多く存在していますが、この日は市のマイクロバスで市内6か所の史跡や施設について学習しました。

- 1、中野遺跡発掘現場（広報7月号に紹介）
- 2、忍岡古墳
- 3、なわて水みらいセンター
- 4、田原城跡
- 5、千光寺跡
- 6、市立歴史民俗資料館



中野遺跡発掘現場



忍岡古墳

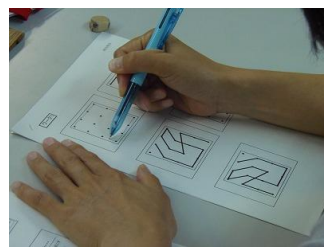


千光寺跡出土キリシタン墓碑

### ○教職員研修「支援教育基礎研修」

8月21日（水）大阪府立寝屋川支援学校の河上こずえ進路支援コーディネーターから、発達障がいと通常の学級でできる支援について講義を受けました。今回は発達障がいの基本的な理解を通して、通常の学級において、目の前の子どもたちの中に「支援を必要としている子」への具体的な関わり方等を学びました。また、各学校では、子どもの特性に応じ「校内ケース会議（担任・学年の先生・専科の先生・養護教諭・支援教育コーディネーター・管理職等で構成）」が開催され、情報共有から今後の支援策が打ち出されています。

今回の研修会ではワークショップも取り入れられ、参加者自らが子どもの立場に立って「子どもの困り感」を体験し、個に応じた支援のありかたについて学びました。



「障がい」については一つ一つについて学習してきた中、河上先生がはじめにいわれた「いくつもの障がい重なっていて、どの部分を支援していくべきか」と悩んだりするお話に共感しました。確定したものがなく、日々違う場面に遭遇すると自分自身に迷いが生じることが多いので、河上先生のお話は、分かりやすく励まされたような気持ちになりました。一人で抱え込まず、みんなで対策支援していくことの大切さを感じました。…中略… 私自身、二学期から話し方に変化を持たせていこうと思っています。ありがとうございました。（参加者の声）

## ○教員研修「理科好きな子どもを育てよう」

8月22日(木) 田原小学校において、「理科の授業づくり」研修会が持たれました。他校からの教員も参加する中、大阪府教育センター理科教育研究室の指導主事をはじめ、田原小学校の山田毅先生(コア・サイエンス・ティーチャー)から、「まずは先生が理科好きになろう」と実験・観察の具体的な指導方法を学びました。

例えば

- ・小学校3年生教材「太陽と地面の様子」では「影が動くのは何と関係があるのだろうか？」に対し、子どもたちは予想を立て、その予想を確かめるため、実験・観察計画を立てていきます。影のつき方を説明するためには方位磁針の正しい使い方も指導する必要があります。実験・観察した結果を整理し、話し合い、導き出した結論から科学的な見方や考え方を持つ。この一連の展開例の講話から参加者は理科における授業のありかたを学ぶことができました。

1 事象と出会う→2見通しを立てる→3調べる→4つきとめる→5活かす→6振り返る

この他に「身近な草花の観察方法とノートまとめ方」「生活科の学習での留意点」「てんびんの学習から法則を導き出す展開例」など、子ども役の先生方も目を輝かせて授業に参加していました。



## ○初任者教職員研修「自然体験学習で教材づくり」

この夏季休業中の初任者研修は、四條畷市の郷土の歴史と自然を知り、自分たちの住む四條畷市に対して郷土愛をはぐくむための教材づくりに欠かせない研修でもあります。

8月22日(木)、自然豊かな府民の森「むろいけ園地」の「森の工作館」において自然体験学習を実施しました。

当日は猛暑の中、森の工作館長 久保勝範さんにより、むろいけ園地内の自然についての解説と散策・観察調査をしていただきました。今年度は、園地周辺の樹木に立ち枯れの問題が生起していますが、フィールドワークする中でその現状を調査し、子どもたちに自然環境を維持していくために、何が大切かを考えさせる教材づくりに挑みました。

立ち枯れの樹木の場所と本数の確認→原因となっている「害虫(クイムシ)の痕跡」の確認→自然を守っていくため、できることなどを、実際にグループに分かれ、調べたことを話し合いながら壁新聞にまとめ、みんなの前で発表を行っていきました。

参加者たちは日ごろの授業のありかたを振り返りながら、学習の目当ての出し方や、調査の方法・壁新聞にする時の注意点・発表の仕方など、意見を出し合いながら、真剣な面持ちで作業を進めていきました。壁新聞が出来上がり、みんなの前で発表するときは、暑さも忘れ、真剣な表情で聞きあっていました。

最後に、木切れや木の実などを使って、思い出づくりに「小物のマスコット」を制作する楽しいひとときもありました。

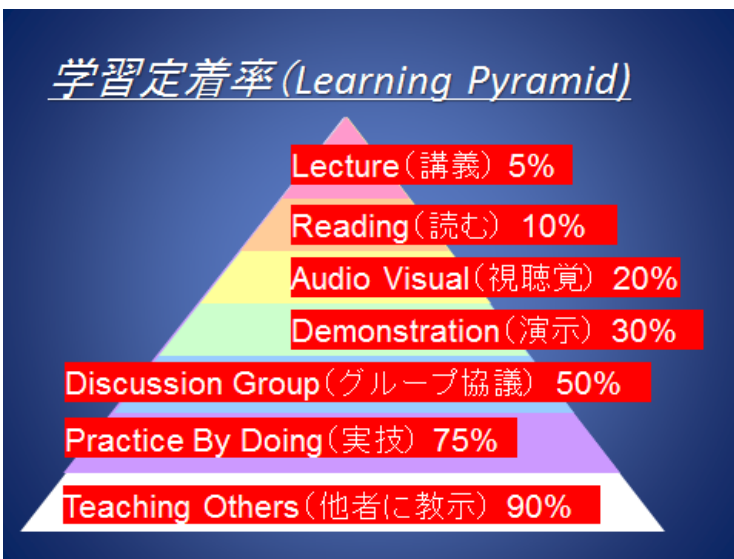




## ○教員研修「理科授業づくり」

昨年度実施されました全国学力・学習状況調査と今年度実施しました全国標準学力検査（NRT）の理科において、小中学校ともに全国を大きく下回る結果となりました。また学校質問紙調査の回答からは、「理科室での観察・実験の回数が少ない」実態や「自ら考えた仮説をもとに、観察・実験の計画を立てる」ことや「観察や実験の結果を整理し考察することなどの学習活動が少ないなど、理科の課題が明らかになり、他教科同様「授業改善」が急務となっています。

このような中、8月26日（月）学力向上対策プロジェクト事業による教員研修「理科の授業づくり」が実施されました。講師として、大阪府教育センター理科教育研究室 竹村美徳主任指導主事を迎え、小中学校教員対象に理科における「思考力・表現力を育む授業展開」と「明日からの授業改善に役立つ工夫」について、講義を受けました。



学校での学習定着率の調査結果（National Training Laboratories アメリカ）によりますと、（左図）

説明・講義では5% 読むでは10%、  
視聴覚教材を活用では20%  
教師の実演では30%と低い定着率となっています。これらを言いかえすと、「授業者主体の授業」といえます。  
では、高い定着率の学習形態を見ますと  
グループ討議が50%  
実践・体験が75%  
他者に教えるが90%で  
「学習者主体の授業」とみることができます。



大阪府教育センターでは、これらの調査結果をふまえて、「授業づくりのポイント」として、

①出会う→②結び付ける→③向き合う→④つなげる→⑤振り返る  
の流れを授業に位置づけることが大切と示されています。（左図）

本市においても各学校の授業づくりの校内研修会が熱心で開催され、それぞれの学校の特色を生かした取組がすすめられています。今年度の特徴として、各学校単位の校内研究から、広く市内すべての学校に呼びかけ、公開授業研究会として開催されるようになってきています。



大変興味深く聞かせていただきました。定着率 90%が他の人に教える。とても納得しました。最初の磁石の問題も一人で考え、説明してもらい、また、人に説明することで、より確かに定着するというのを実感しました。一般化、法則化することがしっかりできるためには、教師の教材研究（物事の本質を知ること）の深さが大きいと思います。時間がほしいと思いました。理科の苦手意識がありましたが、こんな理科の授業ができれば、子どもたちも楽しいだろうと思いました。ありがとうございました。（参加者の声）

## ○北河内教員研修「通常の学級における発達障がい等支援事業」報告会 in 市民総合体育館

「通常の学級における発達障がい等支援事業」

### 第1回地区別事業報告会 (北河内地区)

四條畷市立四條畷南中学校区  
四條畷南中学校・四條畷南小学校・四條畷東小学校

8月27日(火) 四條畷市立市民総合体育館サン・アリーナ25の多目的室において「通常の学級における発達障がい等支援事業」として、四條畷南中学校・四條畷南小学校・四條畷東小学校の取組み報告会が開催されました。

この事業は、大阪府内7地区に分かれて実施され、北河内地区の代表として3校が大阪府教育委員会の研究指定を受けているものです。すでに「教育委員会ニュース第17号」において、お知らせいたしておりますが、この事業は、発達障がいのある子どもたちの指導・支援に限定するのではなく、幼稚園・小学校・中学校において、すべての子どもの「わかる・できる」授業づくり、

集団づくりについて実践研究をすすめるものです。3校にはアドバイザースタッフとして関西国際大学 中尾繁樹教授や大阪府教育委員会・大阪府教育センターのサポートチームによる指導助言を受けながら研究を進めてきました。

4月から始まったばかりの事業ですが、第1回目の報告会を開催しましたところ、北河内7市の幼稚園・小学校・中学校・府立学校の教職員166名参加のもと、3校の実践報告と大阪府教育委員会・大阪府教育センターを交えてのパネルディスカッションを実施しました。

四條畷南中学校からは、「すべての生徒が生き生きと学校生活を送れる魅力ある学校づくり」のテーマのもと、生徒の学年ごとの現状と、取組みについて報告がありました。教室環境のありかた、教室掲示の仕方、学習の仕方などを取組まれる中、今後の方向性として、①小中学校間連携の大切さ ②クラブ活動の役割の見直し ③生徒にやる気を起こさせる授業での導入のありかた ④生徒の自尊感情を高める指導のありかたなどについて、引き続き研究を進められることが報告されました。



四條畷南小学校からは、6年生2クラス以外すべて単学級の小規模校ならではの困難さがある中で、学習の定着と、支援を要する困り感を持つ子どもへの働きかけのありかたについて研究を進められています。テーマとして「南小スタンダード(授業規律・話し方・聞き方)をつくり、学力向上をめざす」を掲げられ、教職員一体となって授業改善と学力向上を図られ、教室掲示(話す・聞くのルール)、授業公開ウィーク、ちょこっと研修、放課後学習教室の開催、家庭学習の手引の作成、データベースの問題集の活用などに取組んでいます。

四條畷東小学校からは「授業のユニバーサルデザイン化」のテーマのもと、取組みと現状についての報告がありました。学校全体で「教室掲示の工夫」「視覚支援の工夫」「グループ学習・話し合い活動の工夫」についての具体的な取組みと、中尾繁樹教授の指導助言から、「・正しい姿勢の意識づけ・体力向上の取組み・グループ活動のありかた・学習規律の統一」について、教職員が共通認識を図りながら系統立てた指導をおこなっていくことが報告されました。



パネルディスカッションでは、3校の報告者から各校の課題と今後の研究の方向性について意見交換を行い、大阪府教育委員会支援教育課 中平好美総括主査からは「3校はじめ幼・小・中学校園に期待すること」、大阪府教育センター支援教育研究室 室田澄江主任指導主事から「アセスメントシートの活用」についての指導助言がありました。

